

特定非営利活動法人 よこはま里山研究所
第23期（2022年7月～2023年6月）通常総会
議案書

- ・第1号議案 第22期（2021年7月～2022年6月）事業報告
- ・第2号議案 第22期（2021年7月～2022年6月）決算報告
- ・第3号議案 第23期（2022年7月～2023年6月）事業計画
- ・第4号議案 第23期（2022年7月～2023年6月）予算
- ・第5号議案 定款変更

日時：2022年8月27日（土）18:00～19:30

場所：はまどま（横浜市南区宿町2-40 大和ビル119）

第1号議案 第22期事業報告(2021年7月～2022年6月)

第22期もコロナ禍の影響は続いたが、全主催事業への参加者数はのべ2,459名と3年振りに前期よりも増加した(第20期2,369名→第21期2,270名)。この要因としては、「もったいないから竹細工」(597名→794名)と「トンボとり大作戦」(225名→407名)の参加者の増加が大きかった。全体的に野外活動への参加者数は堅調であったのは、コロナ禍に自然を求める動きが強まったことと相関があるように思われる。一方、飲食を伴う室内活動は今期も十分に実施することができなかつたので、今後どのように活動を再開させるのかについて前向きに検討する必要がある。

「はまどま」に関しては、2020年8月からコーディネーターが入り、「街なかの里山の入口」として利用しやすい環境づくりに向けた情報整理を進めている。コロナ禍のために新たな企画を立ち上げにくいことから、コーディネーターの週1回定期在室を開始するなど工夫して、情報の収集・発信に努めた。

収支については、受託事業が堅調なことから8期連続の黒字となった。今期も「もったいないから竹細工」の参加者が多数入会したこと、よこはま夢ファンドを通して寄付を集めて助成金として活用できていることも、財務状況の安定化に役立っている。

一方、今期中にミッション・ビジョン・バリューの見直しと中長期計画の作成を予定していたが、この課題は2期続けて持ち越しとなった。また、コアメンバーの流動性が低いことも依然として課題である。財務基盤が確かなうちに、将来の環境・社会・経済状況の変化を見据えたNORAの存在意義について確認し、計画性を持って「里山とかかわる暮らし」と「里山をいかす仕事づくり」をすすめたい。

自主事業

里山(樹林地や農地等)の保全・活用、里山と人をつなぐ活動

1. ヤマ事業

1) NORAの山仕事

川井特別緑地保全地区(旭区下川井町)において、「森の中で憩える空間」づくりを継続的におこなっている。第22期は間伐材や廃材の運材など、林内の整備を充実できた。また、廃材置き場を新設でき、少ない燃料による焼却処分も可能になった。

毎月第2・第4日曜日の定例活動への参加者数は、雨天中止やコロナ禍の影響を受けながらも、のべ393名(昨期259名)と昨期を上回った。モリダスとの共催事業による森づくりレベルアップ研修2期にはメンバー2名が最終選考に残ることができた。3期の参加も期待したい。「やま守り編」の参加者数はのべ75名(昨期187名)で、ハーブ花壇の新設により苗場の草取りを促進できた。

実施日	活動内容	参加者	スタッフ
7/11(日)	運材、掛かり木除伐、苗場除草	11	0
7/25(日)	運材、機械除草、植栽管理	23	1
8/8(日)	雨天中止(台風10号)	0	1
8/22(日)	廃材運材、機械除草、苗場植栽管理、丸太皮むき	10	1
9/12(日)	フェンスツル外し、機械除草、越境木切り戻し、間伐材移積、皮むき、薪割、ハンモック	18	1
9/26(日)	運材、廃材玉切り、越境枝切り戻し	7	1
10/10(日)	運材、越境枝切り戻し、薪割、丸太皮むき、人力除草	13	1

10/24 (日)	運材、玉切り、苗場植栽管理、自然薯掘り	8	1
11/14 (日)	廃材運材、薪割、廃材玉切り、皮剥き	31	1
11/28 (日)	広葉樹除伐	13	1
12/12 (日)	ミズキ除伐、グリーンウッドワーク	23	1
12/26 (日)	ミズキ除伐、苗場下草刈り、チップ敷き、苗場植栽管理	18	1
1/9 (日)	ミズキ除伐、薪割、苗場林床整理	19	1
1/23 (日)	ミズキ除伐、薪割り、階段補修	22	1
2/13 (日)	研修用資材伐り出し、廃材移積	7	1
2/27 (日)	ミズキ除伐、薪割り、廃材焼却、玉切り	14	1
3/13 (日)	ミズキ除伐、薪割り、椎茸菌コマ打ち	14	0
3/27 (日)	ミズキ除伐、針葉樹除伐準備、薪割り、皮むき、玉切り	17	1
4/10 (日)	危険木除伐、林床整理、機械除草、皮むき、製材	12	1
4/24 (日)	危険木除伐、機械除草、皮むき、製材	14	1
5/8 (日)	丸太皮むき、運材、廃材玉切り、危険木除伐、機械除草、運材	26	1
5/22 (日)	危険木除伐、運材、資材置き場整理、皮むき	16	1
6/12 (日)	削り馬組み立て、薪置き場移設、材積み直し、運材	18	0
6/26 (日)	ステップアップ研修、丸太皮むき、ロゴソール移動	18	1

372

21

【やま守り編】

実施日	活動内容	参加者	スタッフ
7/14 (水)	苗場の植栽管理	1	1
7/16 (金)	苗場の植栽管理	0	1
8/7 (土)	苗場の植栽管理	1	1
8/19 (木)	苗場の植栽管理	0	1
8/26 (木)	廃材の運材、機械除草、苗場の植栽管理、丸太の皮むき	8	4
9/20 (月祝)	苗場の植栽管理	6	1
9/30 (木)	苗場の植栽管理	1	1
10/3 (日)	苗場植栽管理、廃材加工、ツル外し	1	1
11/6 (土)	苗場の植栽管理	1	1
11/7 (日)	モリダス、玉切り枝払い研修	8	4
11/12 (金)	苗場の植栽管理	1	1
12/1 (水)	チップ化立会い、チェーンブロック基礎作り	2	1
12/2 (木)	チップ化立会い、丸太置き場の養生	2	1
1/28 (金)	苗場隣地機械除草、廃材焼却、水回り基礎作り	1	1
2/9 (水)	苗場の植栽管理	1	1

3/9 (水)	苗場植栽管理	1	1
3/21 (月祝)	廃材の焼却、林内駐車スペースの補修	0	1
4/3 (日)	苗場の植栽管理、筍の除伐	4	1
5/4 (水祝)	刈り払い機講習、丸太置き場補修	9	1
5/10 (火)	苗場の植栽管理	0	1
6/5 (日)	丸太置き場&廃材置き場、レベル出し	0	1

48 27

2) 竹を活かす山仕事

手入れが行き届かなくなった竹林は拡大し、農地や生活環境を侵食するなど、里山の景観に大きな影響を及ぼしている。竹林を手入れすることで畑を守り、里山生態系のバランスを保つために、原則月1回、中井町でお世話になっている農家と、その親戚が所有する民有地で竹林を整備した。

第22期も「もったいないから竹細工」の事業収入によって運営費用を捻出できた。メンバーも少しずつではあるがリピーターの定着を確認できた。参加者数は、のべ86名(昨期80名)であった。

実施日	活動内容	参加者	スタッフ
7/18 (日)	竹の間伐、間伐材の搬出	4	1
9/19 (日)	長浜公園の竹林整備	3	1
10/17 (日)	竹の間伐、間伐材の搬出	9	1
11/21 (日)	竹の間伐、間伐材の搬出	11	1
12/19 (日)	竹の間伐、間伐材の搬出	6	1
1/16 (日)	竹の間伐、間伐材の搬出	7	1
2/20 (日)	竹の間伐、間伐材の搬出	4	1
3/20 (日)	竹の間伐、間伐材の搬出	8	1
4/17 (日)	竹の間伐、間伐材の搬出	10	1
5/15 (日)	竹の間伐、間伐材の搬出	6	1
6/19 (日)	竹の間伐、間伐材の搬出	7	1

75 11

3) よこはま里山レンジャーズ (連携：認定NPO法人自然環境復元協会 (NAREC))

本事業は、里山保全活動を始めようとする主に若い世代と、活動支援を必要としている既存の活動団体とをつなぐマッチングプログラムである。NARECの「レンジャーズプロジェクト」に登録したボランティア「レンジャー」(4,381名、2022年3月時点)に対し、受入団体と活動内容が調整された出動要請メールが発信され、レンジャーはそのメールに返信するだけで希望する活動に参加できる。活動当日は10~20名程度のレンジャーが集まり、レンジャーズリーダーの誘導のもと受入団体の活動に参加するため、一人で参加する心細さがない。

10年目を迎えた第22期は、市内6か所のフィールドにおいて8回のレンジャーズ活動を計画し、6回実施した。参加者数は79名(昨期6回実施、66名参加)であった。なお、第20期から続くコロナ禍の影響により9月と2月は開催が中止となった。

回	実施日	実施場所	受入団体	参加者
1	9/18 (土)	新治の谷戸田	新治「わ」を広げる会	中止
2	10/23 (土)	瀬上市民の森	瀬上さとやまもりの会	8
3	12/5 (日)	桜ヶ丘緑地	桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクト	7
4	2/13 (日)	瀬上市民の森	瀬上さとやまもりの会	中止
5	3/5 (土)	谷矢部池公園	わかぎの会、NPO 法人ぷらっと	10
6	5/8 (日)	川井緑地	NPO 法人よこはま里山研究所	13
7	6/11 (土)	元町公園プール	横浜にとんぼを育てる会	18
8	6/26 (土)	新治の谷戸田	新治「わ」を広げる会	13

79

4) 都市の里山資源の活用推進事業 (令和3年度「緑の募金」公募事業)

NORA が目指している「かつての里山のように、暮らしと里山との距離を近づける」ことによる里山環境の再生を目標に、川井緑地の活動で産出する里山資源の活用検討を、国土緑化推進機構「緑の募金」の助成金を活用して実施した。第22期は、主に川井緑地で活動するメンバーを対象に、以下の研修会を開催した。

回	実施日	実施場所	内容	参加者
1	12/12 (日)	川井緑地	グリーンウッドワーク入門講座(講師:小野敦)	9
2	6/12 (日)	川井緑地	馬づくりワークショップ	10

19

5) 山道具の安全使用 (提携:株式会社シンコー)

株式会社シンコー社とサブ店契約を締結(2011年6月)して、チェーンソーメーカー(スチール STIHL)の二次代理店業務を担い、環境に配慮しつつ安全性を高めた緑地保全活動用の機材使用の啓発をすすめている。第22期は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各種の活動が自粛となり販売実績は僅少となった。(売上58千円、粗利益7千円)

6) まちの近くで里山をいかすシゴトづくり | 環境 NPO 運営スタッフ懇談会

中小規模の環境 NPO では、次々に押し寄せる運営上の課題に対して、スタッフがほぼ独力で対応している。その試行錯誤は貴重な経験として団体内に蓄積されるが、ほかの団体にとっても役立つ情報であることが多い。そこで、環境 NPO の運営を担うスタッフが個人の意志から集い、自団体の経験をオープンにして学び合う懇談会を2020年8月に立ち上げた。東京・神奈川・大阪・福岡に事務所を持つ環境 NPO から9名が毎月第4水曜日夕方に集い、バックオフィスの DX 化(会員・顧客管理、オンライン決済、プロジェクト管理)、リモートワーク、コロナ禍の対応、保険などについて経験を共有した。

7) 安全で楽しい森林の保全・利用を指導できるリーダー養成事業

(令和3年度「緑と水の森林ファンド」助成、主催:モリダス)

モリダスは、横浜・多摩地域で森林づくり・里山保全活動を実践してきた市民が、適切なメソッドを持って人材育成を図る必要性を感じ、2018年3月に設立した任意団体である。NORA は、モリダス主催のリーダー養成事業を共催するかたちで緊密に連携を図っている。

第22期までに step1 から step3 に至る一連の研修サイクルを2回実施して、プログラムの改善と体系化を進めることができた。伐木を想定した安全管理研修とフォローアップ、手道具による玉切り・枝払い研修は新規プログラムであったが、一定のニーズがあることを確認できた。一方で、step1 の受講者27

名のうち step3 まで継続された方は2名のみで、研修の内容・開催方法について改善する余地がある。

関東地方にナラ枯れ被害が急拡大している現状を踏まえて、オンライン連続学習会「ナラ枯れ被害の現在と伐採更新の可能性」を開催したところ、100名に迫る参加申込みがあった。ナラ枯れの実態を踏まえて、今後の里山保全の方針について検討し直す必要がある。

実施日	実施場所	タイトル	参加者	スタッフ
10/23 (土) 10/24 (日)	川井緑地	森づくり活動レベルアップ研修 step1 ～手道具の扱い方 (講師：松井一郎さん)	11	4
11/7 (日)	川井緑地	手道具による玉切り・枝払い (講師：高澤愛さん)	8	1
12/11 (土) 1/10 (月祝) 1/22 (日)	にいはる里山 交流センター 川井緑地	森づくり活動レベルアップ研修 Step2 ～ロープワークと牽引システム (講師：島村雅英、高澤愛さん)	15	6
1/29 (土) 1/30 (日)	グリーンライブ センター	野外体験活動における安全管理とコミュニケーション研修 (講師：志賀壮史さん)	12	3
2/26 (土) 3/5 (土) 3/12 (土)	川井緑地	森づくり活動レベルアップ研修 Step2 審査会 ～折れ曲がり線とツル (講師：高澤愛さん)	6	2
5/1 (土) 6/11 (土)	川井緑地	伐木を想定した安全管理研修とフォローアップ (講師：高澤愛さん)	7	2
5/29 (日) 6/26 (日)	川井緑地	森づくり活動レベルアップ研修 step3 ～手道具とロープで安全に木を倒す方法 (講師：塚本秀貴さん)	7	3
6/14 (火) 6/21 (火)	オンライン	連続学習会「ナラ枯れ被害の現在と伐採更新の可能性」(松元信乃さん、舟木匡志さん、長久豊かさん、土屋俊幸さん)	93	1

159

22

2. ノラ事業

1) 森と畑と音楽と

丹沢東麓に位置する厚木市の里山における活動で、2014年にスタートし第22期で8年目を迎えた。活動の目的は農地管理が第一だが、参加者を増やすために「自然の中での様々な活動を通じて幅広い年齢層・異分野の人々が集い、有機的に結びつく空間の創造」を目標として、この土地に多くの人が関心を持ち、活動に来ることが楽しいと思える活動をおこない、持続するシステムをつくらうと考えている。

第22期の特徴は、3点挙げられる。

- ①畑：畑の目玉となる作物を作ることにした。貯蔵性があり、比較的手のかからない作物としてニンニクを作付けすることにした。また、22期も県内在住の家族に声をかけ、ジャガイモ収穫作業等に参加してもらうなど、体験の場を提供した。
- ②水田：米づくりを始めて6年目を迎えた。20期から導入した紙マルチを今期も導入した。21期は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、間隔をあけて臨んだが、今期は一斉に取り組むことができたので、横一列に並んで植えていくように転換した。このため、マルチの準備も修正した。
- ③イベント：田植え体験に限らず、野菜収穫体験等も受け入れることができ、関わる方が増えているこ

とが嬉しい。

第22期の活動日は計27日(16期77日→17期72日→18期63日→19期37日→20期56日→21期41日)で、月平均2~3日のペースで活動をおこなった。ここ数年スタッフの疲弊を考慮して効率的に作業をおこなってきたが、昨期よりもさらに活動日数を減らした。これは、作業や準備にかかる労力を削減したことによるが、参加者ののべ人数は244名(16期494名→17期367名→18期281名→19期258名→20期326名→21期246名)となっており、21期と比較し活動日数は削減したが、参加者数はほぼ変わらなかった。これは、イベントでの参加者数が増えていることによると考えられる。今後もミニコンサートなどの楽しめるイベントや他者と交流できる機会を開催しにくい状況ではあるが、資源を有効に活用した人集めをおこなっていききたい。

実施日		回	活動内容	参加数
7月	18(日)	1	夏野菜収穫、草刈り、※田んぼ水見回りは毎日	3
8月	1(日) 22(日)	2	畑草刈り、耕耘、マルチ張り、落花生収穫、田んぼ点検	5
9月	5(日) 18(土) 19(日)	3	水田草取り(8名) ニンニク種球ばらし、畑のマルチ張り、種球植え	14
10月	16(土) 17(日) 23(土) 24(日) 30(日)	5	野菜収穫、種まき、キャンプ、BBQ、稲刈りイベント(稲刈り、ハザカケ、脱穀)参加者4日間で71名(大人37名、こども34名)(昨期は2日間で52名)	75
11月	28(日)	1	野菜収穫	2
12月	5(日)	1	野菜収穫体験(大人6人、こども8人)	14
1月				
2月	13(日) 27(日)	2	耕耘、畝立て、ジャガイモ植え付け	4
3月	13(日) 20(日)	2	耕耘、野菜収穫、種蒔き	6
4月	9(土) 29(金)	2	用水路清掃、野菜収穫、草刈り、耕耘、畝立て、マルチ張り、苗植え付け	5
5月	3(火) 14(土) 22(日) 29(日)	3	用水路清掃、畦草刈り、畑草刈り、耕耘、畝立て、野菜種蒔き、収穫体験(ジャガイモ・タマネギ掘り、レタス収穫)参加者8名、田んぼ耕耘、ニンニク・ニンニクの茎収穫、BBQ、ポン菓子作り	18
6月	4(土) 12(日) 18(土) 19(日) 26(日)	5	野菜の収穫、草刈り、水の引き込み、代掻き、畑耕耘、紙マルチ準備、田植え体験イベント(大人46名、中・高・大学生13名、こども幼・保・小26名)、	98

27

244

持続可能な地域コミュニティづくり、暮らしの提案、イベントの企画・運営

3. ムラ事業

1) はまどまプロジェクト

「はまどま」発足後、2022年6月で丸14年が経過した。街なかの里山の入り口、里山を暮らしにいかす実践の場として多様な企画を実現してきた。地域の皆さんの暮らしに役立つ場としても、宮宿花1・2丁目町内会、蒔田公園愛護会、大岡川アートプロジェクト「光のぶろむなあと」実行委員会などに参加し、信頼関係を積み重ねてきた。第22期もコロナ禍の影響により飲食を伴う活動は今期も大きく制約を受けたが、竹細工では多くの参加者を集めることができた。街なかで里山を体験できる「はまどま」

の可能性は大きいと思われるので、この場所の価値を地域の皆さんをはじめ周知していきたい。

(1) NORA 野菜市

毎週火曜日 17～19 時、大和ビル駐車場にて、神奈川県内・生産者限定の野菜市として開催し、2021 年暮れに丸 17 年を迎えた。2021 年の日本の食糧自給率はカロリーベースで 38%と、前年より 1%上昇した。大豆・小麦の生産が増加している。もちろん、国が目標とする 2030 年の 45%にはほど遠い。生鮮野菜・果物は調理済みの購入が増える傾向にあり、その中で輸入野菜が使われる可能性が高い。一方、NORA 野菜市は子育て家庭の利用が増加している。コロナ禍の中でも生活に必要な物資を供給する立場で、感染予防を心がけて生産者とともに野菜市を継続できた。

2021 年 4 月から担当者の体調不良により野菜市は休止したが、約半年後の 10 月に再開できた。再開後、神奈川県内にとどまらず全国の有機農業、自然栽培に挑む若い生産者の支援に力を入れている。たとえば、日本茶インストラクター・井上香織さんと共同して有機農法のお茶のコーナーを作り、シンガーソングライター choji の紹介で三重県津市美杉町の生産者・池田三朗さんとの繋がりが生まれた。

2021 年 5 月に農林水産省が発表した「みどりの食料システム戦略」への対応が重要になっている。2022 年 2 月 24 日に始まったロシアによるウクライナ侵略が及ぼす影響、大幅な円高、激しさを増す地球規模の気候危機などにより、世界的な食糧危機が現実のものとなった。

(2) 生産者の心とともに季節を味わう神奈川野菜の食事会

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず、開催を見送っている。

(3) もったいないから竹細工

里山では手入れされない竹林が生い茂り、邪魔物として扱われている。かつて有用だった竹を生かさないのはもったいないので、竹林整備の際に出てくる竹材を有効に生かすために竹細工を製作している。毎月第 2 土曜日開催の竹かご教室では、講師に指導を受けながら全 10 回で六つ目編みを基本とした竹かご 5 作品をつくる。第 1 水曜・第 3 木曜・第 4 月曜・第 4 土曜日開催の竹細工工房では、竹かごを編むための竹ひごの準備のほか、竹へら・菜箸・パスタフォークなど（カトラリー）、さまざまな食器もつくっている。なお、2022 年 2 月から竹かご教室は第 4 土曜日開催に、竹細工工房は第 2 土曜日開催に変更した。

第 22 期では、多数のキャンセル待ちへの対応として、アドバザー不在で参加者が自ら竹ひご作りやかご編みに専念できる「自主練習日」を新設した。参加者数は、竹かご教室のべ 87 名（昨期 95 名）で、竹細工工房はのべ 583 名（昨期 492 名）、自主練習はのべ 124 名（昨期実施なし）、合計では 707 名（昨期 502 名）となった。また、その中で入会者数は 84 名（昨期 56 名）だった。

【竹かご教室】

実施日	参加者	スタッフ	実施日	参加者	スタッフ
7/10（土）	6	2	1/8（土）	5	2
8/14（土）	6	2	2/26（土）	6	2
9/11（土）	5	2	3/26（土）	5	2
10/9（土）	5	2	4/23（土）	6	2
11/13（土）	5	2	5/28（土）	2	2
12/11（土）	6	2	6/25（土）	6	2

63

24

【竹細工工房】

実施日	参加者	スタッフ	実施日	参加者	スタッフ
7/7 (水)	8	3	1/5 (水)	9	3
7/15 (木)	8	3	1/20 (木)	10	2
7/24 (土)	8	3	1/22 (土)	9	3
7/26 (月)	8	3	1/24 (月)	7	3
8/4 (水)	9	3	2/2 (水)	11	3
8/19 (木)	9	3	2/12 (土)	9	3
8/28 (土)	9	3	2/17 (木)	10	3
8/23 (月)	7	3	2/28 (月)	9	3
9/1 (水)	8	3	3/2 (水)	10	3
9/16 (木)	11	3	3/12 (土)	8	3
9/25 (土)	9	3	3/17 (木)	9	3
9/27 (月)	8	3	3/28 (月)	8	3
10/6 (水)	8	3	4/6 (水)	9	3
10/21 (木)	7	3	4/9 (土)	9	3
10/23 (土)	11	3	4/21 (木)	8	3
10/24 (月)	12	3	4/25 (月)	9	3
11/3 (水)	11	3	5/4 (水祝)	9	3
11/18 (木)	6	3	5/14 (土)	10	3
11/22 (月)	10	3	5/19 (木)	8	3
11/27 (土)	9	3	5/23 (月)	9	3
12/1 (水)	8	3	6/1 (水)	11	3
12/16 (木)	12	3	6/11 (土)	11	3
12/25 (土)	9	3	6/16 (木)	10	3
12/27 (月)	12	3	6/27 (月)	11	3

440 143

【自主練習日】

実施日	参加者	スタッフ	実施日	参加者	スタッフ
7/17 (土)	3	1	12/18 (土)	8	2
8/21 (土)	9	1	1/15 (土)	4	1
9/4 (土)	5	1	1/29 (土)	3	1
9/18 (土)	6	1	2/19 (土)	9	2
10/16 (土)	8	1	3/5 (土)	6	2

11/6 (土)	8	1	4/2 (土)	5	2
11/20 (土)	8	1	5/7 (土)	6	2
12/4 (土)	5	1	6/4 (土)	9	2
				102	22

(4) はぶすばラボ

22期も、身近にあるけれど使い方に迷うことがあるハーブやスパイスを、生活や料理のエッセンスとして使えるよう提案・実践してゆく時間となった。参加者が互いに知恵や知識を共有できる交流の場・研究できる場として、毎月第2日曜日に講座を開催していたが、講座形式は5月で一旦終了。6月からは座学を簡略化し、料理作りと試食を主として開催。ただし、あくまでもラボ（研究・実験会）としての位置づけは変わらずに、試食後の情報交換の時間も引き続き実施している。

2021年5月からは川井緑地の一角に設けられた花壇のハーブやスパイスも講座や活動イベント等で活用。8月と11月には川井緑地でも開催した。第22期は、のべ39名の方にご参加いただいた。

実施日	内 容	参加者	スタッフ
7/11 (日)	はぶすば醤油作り	7	2
8/8 (日)	川井の森編	2	1
8/22 (日)	ハーブティー	3	1
10/10 (日)	カレー粉づくり	7	2
11/28 (日)	はぶすばラボ～屋外編	2	1
12/12 (日)	オリジナルお屠蘇づくり	5	2
12/26 (日)	はぶすばラボ～屋外編	1	1
1/9 (日)	はぶすば八味作り～ひつつみ	4	2
3/13 (日)	はぶすば de ホットワイン	3	2
5/8 (日)	メキシカンはぶすば mix 作り	2	2
6/12 (日)	はぶすば餃子の会	3	2
		39	19

(5) はまどまで土間仕事

味噌も梅も、年に一度の開催だが、はまどまにとっては欠かせない行事となった。味噌は昨年参加して、あまりの美味しさに今年は倍量作る方が3名、初めての方が4名いらして、以前よりも参加人数が減ったが（コロナで人数制限）来年も開催しましょうと川口さんからお声がけいただいたので、このご縁を大切にしていきたい。

実施日	内 容	参加者	スタッフ
4/10 (日)	川口糀店さんと味噌作り～大豆&米糀	8	1
6/18 (土)	柏木さんの梅で気楽に気軽に梅干しを仕込もう	3	1
		11	2

(6) 『食べもの通信』読者会

1970年創刊の『食べもの通信』（家庭栄養研究会編集）は、2022年には52周年を迎えた月刊情報誌である。さまざまな情報が溢れる中で、信頼度の高い新しい情報を学び合い、経験や考えを分かち合う場を作りたいと考え、2019年11月から読者会を開始した。2020年8月からコロナ禍に対応してリモート

を併用したことで、本誌編集部や岡山・宮崎からも参加者を得られた。回数を重ねるにつれ、意見の出しあい方も経験を積み、一人で読むよりも、重たい内容の記事でも明るく前向きにとらえることができ、楽しいと思えるようになった。

回	実施日	内 容	参加者
17	7/12 (月)	脳と腸の関係・無農薬のお茶・気をつけたい香害	6
	8/3 (月)	流会	
18	9/13 (月)	災害食・こども食堂・繋いだ生産者一覧	5
19	10/11 (月)	もっとたべようご飯・地球温暖化の原因	5
20	11/8 (月)	頭皮を調べて元気な髪に・ゲノム編集とまと	6
21	12/13 (月)	意外と知らない女性ホルモン・柔軟剤と香害	5
22	1/10 (月)	毎日のごはんづくりを楽にする・日本酒	5
23	2/14 (月)	アズキはウルトラ健康食・脱プラの切り札	6
24	3/13 (月)	野菜・魚介類・大豆製品でカルシウム・原発事故	6
25	4/11 (月)	予防原則が食の安全を守る・学校給食を地場産	6
26	5/9 (月)	大麦って腸活に最高・有機フッ素化合物	6
27	6/13 (月)	梅の健康効果を見直し・来馬温泉「風吹荘」	7

63

(7) 里山の恵み・伝統文化と出会う上映会 (共催：郷土映像ラボラトリー)

民族文化映像研究所に約 130 本ある記録映画を中心とした上映会で、「郷土映像ラボラトリー」(主宰：中川美帆さん主宰)との共催による。2020 年 3 月以降、コロナ禍により休止が続いた。

(8) はまどま諸々

会員が主体的に得意なことを教えたり、興味のあることを参加者と学び合ったりする活動である。

①季節の素材でワンプレートメイキング (山本美香会員)

コロナの影響により、今期も開催を見送った。何か形態を変えての開催も考えているが、もう少し感染状況が落ち着いてからの再開を予定している。

②お香のてならい (粕谷恵会員)

今期は 3 回の開催にとどまった。今後は川井緑地の植物でお香の原料を作る企画を検討している。

実施日	内 容	参加者	スタッフ
10/1 (金)	塗香	1	1
12/10 (金)	印香	1	1
12/24 (金)	お線香	1	1

3

3

③心も体も元気に季節の薬膳食事会 (内倉和子会員)

コロナの影響により、今期も開催を見送った。来期はオンラインでの開催も含めて検討する。

2) はまどま改革 (横浜市市民活動推進基金 (よこはま夢ファンド) 助成)

「はまどま」のコーディネート業務を進めるため、改修に関わった寄り合い会議のメンバーとコーディネーターが対話する機会を設けた。さまざまな参考意見が得られただけでなく、はまどまコーディネ

ーターの存在を知ってもらうことができ、地域の活動に参加するなどのつながりもスタートした。2022年4月からは毎週金曜日午後に、コーディネーターが「はまどま」に駐在する時間を設けた。郵便物を整理して事務局機能をサポートするほか、報告記事アップ手伝い・清掃などもおこなっている。また、「はまどま」のホームページの制作を念頭に置いて、「はまどま」の目的・運営・利用方法などを外部にわかりやすく示すための情報整理に取り組んでいる。

3) 地域連携

- ・横浜市南区内の3か所の「こども食堂」に、生産者から無料提供をお願いした作物を提供。保存できない生鮮農産物は、味や栄養の点でも貴重である。「こども食堂」は“食堂”としてはコロナの終息が見通せず、再開できないが、テイクアウトの販売、南区からの食品支援などに合わせて農産物支援をおこなった。支援先として金沢区の学生食糧支援活動を加えた。
- ・10/31(日)、宮宿花1・2丁目町内会主催「ハロウィンパーティー」に参加。蒔田公園エコサロンで受付を済ませた子供たちは町内有志店舗などを回り、町内会が用意したお菓子をもらう。NORAでは、コロナ感染を考慮し「はまどま」の入り口前で対応し、とくに少量の農産物セットのプレゼントを加えた。さらに、大和ビルのこだま舎と共催したことも画期的だった。年々、参加家族が増え、特にコロナ以後は貴重な町内の催しとなった。2021年は144名の子どもたちが参加した。「はまどま」を町内の若い世代に親しんでもらう取り組みである。

4) ネットワーク

(1) まいたエコサロンの会

地域の環境活動拠点として横浜市と構成団体が協働して運営に関わっている。第22期は、運営委員として引き続き参加した。

(2) 横浜コミュニティカフェネットワーク (YCCN)

コロナ禍だからこそ「人と直接会う」こと、場があることの重要性を改めて感じた。来期はそれぞれのコミュニティカフェを訪ねる機会を増やす計画がある。

4. ハレ事業

1) 設立20周年記念事業

(1) プロジェクト紹介動画

昨期の「NORAの山仕事」紹介動画に引き続き、プロジェクト毎の魅力、現場の雰囲気、担当者の想いと参加者の声を5分程度の動画にまとめ、第22期から第23期にかけて計8プロジェクト紹介動画を公開する。今期は2月に「はぶすぱラボ」、6月に「よこはま里山レンジャーズ」紹介動画を公開、来期は5本の動画を公開する予定。動画を見た人の参加申込みが増え、NORA活動紹介の場面で活用したほか、これまできちんと伝えられなかった各プロジェクトの意義の表現について再考する機会となった。

(2) 絵本・カルタ制作 (花博記念協会助成)

都市近郊の里山について、そこにかかわることの楽しさや意義を、普段はそれらに関心を抱かない都市生活者を特に意識して、絵本・カルタを通してわかりやすく表現し、読み聞かせ・ワークショップ・動画配信などを通じて楽しく伝えていくプロジェクトがスタートした。

里山の生物-文化の多様性保全に資する普及啓発、情報発信

5. イキモノ事業

1) トンボはどこまで飛ぶかフォーラム

2003年に活動を開始した当フォーラムは、京浜臨海部において生物多様性に配慮した緑地の質の向上を目的に企業・市民団体・行政・専門家が参加する集まりで、NORAは2015年1月から参加している。第22期は、夏のトンボ調査等に参加したほか、本牧市民公園、根岸森林公園、富岡総合公園、長浜公園において6月～10月にかけて指定管理者が主催する「トンボとり大作戦」の運営を担った。「トンボとり大作戦」への参加者数とマーキングされたトンボの数は下表のとおりである。

調査場所毎の参加者数

調査場所	6月	7月	8月	9月	10月	合計
本牧市民公園	47	14	11	25	13	110
根岸森林公園	中止	44	23	32	3*	102
富岡総合公園	31	23	48	31	15	148
長浜公園	3*	10	20	3*	11	47
合計	81	91	102	91	42	407

捕獲・マーキングされたトンボの数

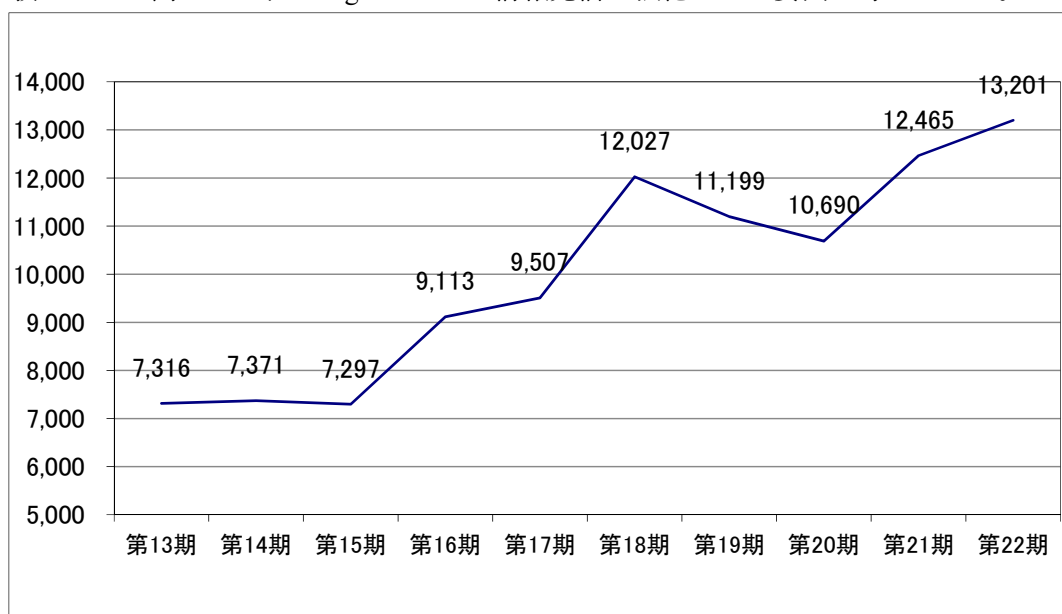
6月	7月	8月	9月	10月	合計
12	35	15	21	25	108
中止	24	47	36	38	145
20	32	42	11	26	131
21	27	21	28	1	98
53	118	125	96	90	482

※6月は第21期、*はスタッフのみで調査実施

6. 広報事業

1) ウェブサイトの更新

第22期もイベントの告知・報告記事など情報発信を定期的におこなった。月平均ページビューは13,201（第19期11,199→第20期10,690→第21期12,465）で過去最高となった。これはコロナ禍における自然体験ニーズの高まりや、Instagramによる情報発信の強化などの要因が考えられる。



2) 「里山と暮らしをつなぐメールマガジン」配信

原則、毎月1日に「里山と暮らしをつなぐメールマガジン」を配信した（第158～169号）。22期末の時点で、NORAから直接配信している数が2,583、メルマガ発行サービス「まぐまぐ！」からは244、合計で2,827アドレスに配信している。日別サイト訪問数は配信後に急増することから、メールマガジンは依然として重要な広報媒体となっている。なお、2020年9月配信の148号からHTML化を実施し、毎号、季節感のある写真と色調で読者に届けている。

3) ソーシャルメディアによる情報発信

第22期末のSNSのフォロワーは、Facebookが1,791(第19期1,320→第20期1,528→第21期1,671)、Twitterは577(第19期514→第20期527→第21期545)と緩やかに増加した。Instagramによる情報発信に努めた結果、フォロワー数は693(第20期74→第21期521)に急増した。また、動画制作の強化を進めており、YouTubeチャンネルの登録数は239となった。

4) 年間報告書の作成

「2021年活動報告」(A4、三つ折り)を作成し、会員・会友へ配布した。「はまどま再生プロジェクト」を中心に自主事業等1年間の活動を紙面で報告するとともに、年越し前に年会費振込みを促した。

協働・受託事業

里山に関する調査研究・コンサルティング・人材育成・講師派遣等

1) 保育所・小中学校等ビオトープ整備のアドバイザー派遣(横浜市環境創造局みどりアップ推進課)

<実施期間:2021年4月~2022年2月、2022年4月~2023年2月>

2021年度は、当該事業でビオトープ整備を実施した小学校15校に対してフォローアップをおこない、ビオトープの維持管理・活用方法、ビオトープ整備方法等について指導した。また、新規にビオトープ整備をおこなった小学校9校を訪問し、ビオトープ整備にかかる計画づくり、整備方法等について助言をおこなった。2022年度も引き続き、市内小学校等に対してビオトープ整備に関する助言を実施している。

2) 長浜公園トンボ池等管理業務(公益財団法人 横浜市緑の協会)

<実施期間:2021年4月~2022年3月、2022年4月~2023年3月>

2021年度は、長浜公園(横浜市金沢区)のトンボ池、水田等において、市民を対象とした環境啓発、生物の生息空間の保全・創造のためのトンボ池等の日常管理をおこなった。併せて、長浜公園と富岡総合公園でトンボ取り大作戦の運営をおこなった。2021年度は、引き続き、トンボ池や水田の適正管理、啓発事業として田植え体験や小学校の授業でのヤゴ救出の実施、「トンボとり大作戦」をとおした生き物調査などをおこなっている。

3) 野島公園ビオトープ水路環境調査(公益財団法人 横浜市緑の協会)

<実施期間:2021年4月~2022年3月、2022年4月~2023年3月>

2020年度は、観音崎博物館が実施する水生生物調査と連携したビオトープ池の環境管理を実施した。2021年度は、引き続きビオトープ池の管理を実施する。

4) 本牧市民公園、根岸森林公園トンボとり大作戦開催業務(横浜植木株式会社)

<実施期間:2021年6月~2021年10月>

子どもたちにトンボとりを体験してもらい、くらしと街中での生きものとのつながりを認識してもらうため、本牧市民公園と根岸森林公園で毎月1回トンボとり大作戦の運営を実施する。

5) 森づくりボランティア派遣及び体験事業業務委託(横浜市環境創造局みどりアップ推進課)

<実施期間:2021年5月~2022年3月、2022年4月~2022年3月>

森を育む人材育成事業に登録された森づくりボランティアの活動推進と既存の活動団体の活性化を

目的に、森づくり活動団体の活動へ森づくりボランティアが参加する「森づくり体験会」の企画、運営、参加者指導等の業務を実施した。

回	開催日	開催場所	森づくり活動団体 (受入団体)	参加者
1	10/30 (土)	称名寺市民の森	なし	15
2	11/14 (日)	綱島市民の森	綱島市民の森愛護会	14
3	11/28 (日)	上矢部ふれあいの樹林	上矢部ふれあいの樹林森愛護会	13
4	12/12 (日)	池辺市民の森	池辺市民の森愛護会	12
5	2/27 (日)	中田宮の台市民の森	中田宮の台市民の森愛護会	10
6	3/6 (日)	寺家ふるさと村	なし	24
継続編				
1	7/17 (土)	上川井市民の森	なし	8
2	10/9 (土)			9
3	12/18 (土)			8
4	1/29 (土)			8

6) Green Gift 地球元気プログラム (NPO 法人日本 NPO センター、東京海上日動火災保険株式会社)

<実施期間：2020 年 10 月～2021 年 9 月、2021 年 10 月～2022 年 9 月>

東京海上日動火災(株)が全国展開している親子向け自然体験プログラムの神奈川県版を、2016 年から小松・城北地区(相模原市緑区)で企画運営している。協働取組の相手は、「小松・城北」里山をまもる会、一般社団法人まちやま、関東 EPO など。2021 年はコロナ禍のためにオンライン方式として、現地の農産物を用いて同時に調理して食べるプログラムを実施した。

実施日	内容	参加者	スタッフ
8/8 (土)	親子で「ずんだ餅」づくり～相模原市城山産の枝豆を味わおう	18	9
9/18 (土)	親子で「にごみうどん」づくり～相模原市産の小麦と野菜	23	10
		41	19

7) 樹林地(横浜市東部)地域計画策定業務(株式会社景デザイン研究所)

<実施期間：2021 年 10 月～2022 年 4 月>

本業務は、横浜市東部に位置する市が管理する市民の森や市有緑地等 45 か所を対象に、地域の特徴を踏まえて樹林地地域計画を策定するもので、横浜市環境創造局みどりアップ推進課から発注された業務の一部を担当した。対象樹林地の現地踏査、環境情報の整理・分析、目標植生の設定、管理方針の設定などを実施した。

委員・講師派遣等

1) 委員

○松村正治

- ・横浜市市民協働推進委員会市民活動運営支援事業部会長
- ・横浜市地域まちづくり推進委員会ヨコハマ市民まち普請事業部会専門委員
- ・公益社団法人国土緑化推進機構「国民参加の森林づくり総合推進事業」検討委員
- ・茨城県営業戦略部「大規模緑地ワーキンググループ」検討委員

○吉武美保子

- ・神奈川県自然環境保全審議会自然保護部会

・横浜市市民協働推進センター事業部会 ※新治里山「わ」を広げる会の肩書で

2) 講師・執筆

○島村雅英

・横浜市環境創造局出前講座「ビオトープで小さな生態系を感じてみよう」を11回、のべ289名の児童に対して開催した。

回	実施日	学校名	対象	人数
1	7/2 (金)	下末吉小学校	5年	30
2	7/16 (金)	梅林小学校	6年	32
3	8/2 (月)	(旭小学校)	学童クラブ	19
4	10/5 (火)	豊田小学校	生きもの委員会	16
5	10/7 (木)	あざみ野第一小学校	環境委員会	21
6	10/12 (火)	石川小学校	3年	21
7	11/12 (金)	洋光台第四小学校	4年	24
8	11/16 (火)	高舟台小学校	4年	37
9	6/15 (水)	別所小学校	3年	29
10	6/27 (月)	永田台小学校	4年	30
11	6/29 (水)	黒須田小学校	4年	30

○松村正治

- ・EIC ネット | エコナビ連載コラム「まちの近くで里山コネクト」
- ・NPO 法人森づくりフォーラム編『人工林の多様性を高める森づくり事例ガイド』
- ・Miyachi Taisuke and Fukunaga Mayumi eds., Adaptive Participatory Environmental Governance in Japan: Local Experiences, Global Lessons: Springer

プロジェクト		第11期	第12期	第13期	第14期	第15期	第16期	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期	第22期	備考
		2010.7-2011.6	2011.7-2012.6	2012.7-2013.6	2013.7-2014.6	2014.7-2015.6	2015.7-2016.6	2016.7-2017.6	2017.7-2018.6	2018.7-2019.6	2019.7-2020.6	2020.7-2021.7	2021.7-2022.7	
ヤマ	NORAの山仕事	245	209	231	223	290	296	315	288	391	347	433	468	2015.7-やま守り編も
	竹を活かす山仕事	5	21	26	36	67	84	94	99	124	65	80	86	2011.4-
	よこはま里山レンジャーズ			182	153	96	169	81	48	63	75	66	79	
	里山保全を安全で楽しく							40	40	49	125	163	181	2019.9-モリダス共催
	里山資源の活用											51	19	2021.5-
	里山でシゴトづくり						129	98	177	165	41	28	0	
ノラ	休耕地再生で農体験	67	241	237	94									2011.4-2014.3
	ヨコハマで農業体験	14	18	42	7									2011.4-2014.3
	NORAの野良仕事	11	5	1	4									-2013.12
	森と畑と音楽と				101	320	494	367	281	258	326	246	244	2013.11-
ムラ	神奈川野菜の食事会	273	197	195	164	103	95	38	73	62	53	18	0	
	もったいないから竹細工①	100	75	48	82	135	137	135	166	177	141	95	87	竹かご教室
	もったいないから竹細工②		27	21	42	135	160	264	253	471	462	502	707	工房、いちねん坊主、自主新
	筆とお香	37	6	19	7	41								旧：野を描く→筆で描こう
	お話の会	24	110	42	20									旧：朗読の夕べ
	『食べもの通信』読者会										32	70	63	2019.12-
	はまどまシアター（映画）			8	27		110	71	51	60	25	0	0	2013.6-
	はまどまで土間仕事				27	27	135	66	64	26	32	19	13	2014.2-
	はぶすばラボ											75	58	2021.12-
	はまどま諸々（会員）					24	130	118	61	47	61	12	6	旧：NORAの部活、手習い壺
	はまどま諸々（非会員）								75	131	21	0	0	
	NORAサロン・ライブ				51	69	38	0	70	48	56	55	0	2013.12復活
	はまどまオープン										162			2019.8-
はまどまPJ計		434	415	333	420	534	805	692	813	1,022	1,045	846	934	
イキモノ	旬の里山探訪	60	29	106	148	198	167	176	184	191	127	105		外部スタッフ除く
	トンボとり大作戦							146	127	154	167	225	407	前期6月分を含む
	Green Gift							79	101	84	51	0	41	外部スタッフ除く
ハレ	竹細工ワークショップ								68	68				
	特別なハレ		125		54			23	15			27		
合計		836	1,063	1,158	1,240	1,505	2,144	2,111	2,241	2,569	2,369	2,270	2,459	
			10周年		TPP			里山が'-デン	里山が'-デン			二十歳祝		
サイト訪問者数		1,686	1,732	2,271	2,650	2,762	2,770	3,342	4,707	3,511	3,727	4,259	4,751	
サイト閲覧頁数		6,260	5,655	7,316	7,371	7,297	9,113	9,507	12,027	11,199	10,690	12,465	13,201	
直帰率		53.20	57.57	57.83	63.64	65.70	60.49	64.46	67.45	67.66	70.27	69.67	71.20	(単位: %)

活動計算書

特定非営利活動法人 よこはま里山研究所

[税込] (単位:円)

自2021年7月1日至2022年6月30日

【経常収益】

【受取会費】

一般会員受取会費	336,000	
運営会員受取会費	120,000	
賛助会員受取会費	10,000	466,000

【受取寄付金】

受取寄付金	144,467	144,467
-------	---------	---------

【受取助成金等】

受取助成金	1,140,000	1,140,000
-------	-----------	-----------

【事業収益】

自主事業収入	1,735,574	
受託事業収入	9,148,150	
販売事業収入	58,305	10,942,029

【その他収益】

受取利息	97	
雑収入	0	97

経常収益計

12,692,593

【経常費用】

【事業費】

(人件費)

人件費計	0	
------	---	--

(その他経費)

売上原価	1,224,069	
業務委託費	6,660,936	
諸謝金	1,574,290	
印刷製本費	12,528	
支払手数料	44,315	
保険料	144,483	
消耗品費	442,756	
水道光熱費	89,654	
地代家賃	953,408	
賃借料	37,430	
旅費交通費	34,450	
通信運搬費	215,618	
減価償却費	344,186	
租税公課	2,000	
その他経費計	11,780,123	

事業費計

11,780,123

【管理費】

(人件費)

人件費計	0	
------	---	--

(その他経費)

業務委託費	238,104	
印刷製本費	630	
支払手数料	29,228	
消耗品費	93,005	

活 動 計 算 書

特定非営利活動法人 よこはま里山研究所

[税込] (単位：円)

自 2021年 7月 1日 至 2022年 6月30日

水道光熱費	3,333	
地代家賃	36,592	
旅費交通費	1,980	
通信運搬費	7,969	
諸会費	15,400	
租税公課	200	
その他経費計	426,441	
管理費 計		426,441
経常費用 計		12,206,564
当期経常増減額		486,029
【経常外収益】		
経常外収益 計		0
【経常外費用】		
前期損益修正損	150,000	
経常外費用 計		150,000
税引前当期正味財産増減額		336,029
法人税、住民税及び事業税		74,500
当期正味財産増減額		261,529
前期繰越正味財産額		14,897,383
次期繰越正味財産額		15,158,912

貸借対照表

特定非営利活動法人 よこはま里山研究所
全事業所

[税込] (単位:円)
2022年 6月30日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未払 費用	150,000
小口 現金	0	未払法人税等	74,500
普通 預金	13,653,161	預 り 金	12,252
郵便 貯金	1,218,571	仮 受 金	23,646
現金・預金 計	14,871,732	前 受 金	710,000
(売上債権)		流動負債合計	970,398
未 収 金	36,000	【固定負債】	
売上債権 計	36,000	固定負債合計	0
(棚卸資産)		負債合計	970,398
商品	0	正味財産の部	
棚卸資産 計	0	【正味財産】	
(その他流動資産)		前期繰越正味財産	14,897,383
立替金	500,000	当期正味財産増減額	261,529
前払費用	329,500	正味財産合計	15,158,912
預け金	8,529		
その他の流動資産 計	838,029		
流動資産合計	15,745,761		
【固定資産】			
(有形固定資産)			
機械装置	67,969		
工具器具備品	0		
有形固定資産 計	67,969		
(無形固定資産)			
電話加入権	89,880		
無形固定資産 計	89,880		
(投資その他の資産)			
敷金	225,700		
投資その他の資産 計	225,700		
固定資産合計	383,549		
資産合計	16,129,310	負債及び正味財産合計	16,129,310

財 産 目 録

特定非営利活動法人 よこはま里山研究所
全事業所

[税込] (単位:円)
2022年6月30日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

小口現金	0
郵便 貯金	1,218,571
ゆうちょ銀行 本部	(883,533)
ゆうちょ銀行 どま	(335,038)
普通 預金	13,653,161
横浜銀行 本部	(9,578,381)
横浜銀行 ヤマ	(174,906)
横浜銀行 島村	(2,325,883)
横浜銀行 吉武	(113,742)
横浜銀行 竹	(201,001)
横浜銀行 松村	(1,259,248)
現金・預金 計	14,871,732

(売上債権)

未 収 金	36,000
横浜市環境創造局	(36,000)
売上債権合計	36,000

(棚卸資産)

商 品	0
棚卸資産 計	0

(その他流動資産)

預け金	8,529
Paypal	(8,529)
立替金	500,000
moridas	(500,000)
前払費用	329,500
家賃	(82,500)
森づくりフォーラム年会費	(20,000)
2022年度事業対応分謝金等 5名	(227,000)
その他の流動資産 計	838,029

流動資産合計

15,745,761

【固定資産】

(有形固定資産)

機械装置	67,969
林業用機器	(1)
クローラー式運搬車	(67,968)
有形固定資産 計	67,969

(無形固定資産)

電話加入権	89,880
日本電信電話 (株)	(89,880)
無形固定資産 計	89,880

(投資その他の資産)

敷金	225,700
大和ビルディング (株)	(225,700)
投資その他の資産 計	225,700

固定資産 計

383,549

資産合計

16,129,310

財 産 目 録

特定非営利活動法人 よこはま里山研究所
全事業所

[税込] (単位:円)
2022年6月30日 現在

《負債の部》

【流動負債】

未払費用	150,000		
はまどまコーディネーター費用R4.4-7	(150,000)		
未払法人税等	74,500		
法人県民税	(20,000)		
法人市民税	(54,500)		
預り金	12,252		
源泉税	(12,252)		
仮受金	23,646		
moridas	(23,646)		
前受金	710,000		
(NPO)日本NPOセンター	(710,000)		
流動負債合計	970,398	970,398	
負債合計		970,398	
正味財産		15,158,912	

財務諸表の注記

特定非営利活動法人 よこはま里山研究所

2022年6月30日 現在

【重要な会計方針】

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1).固定資産の減価償却の方法

有形固定資産：定率法

無形固定資産：定額法

(2).消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

【事業費の内訳】

事業費の区分は別紙の通りです。

【使途等が制約された寄付等の内訳】

[税込] (単位：円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
みどりの募金		410,000	410,000	0	
県森林協議会助成金		30,000	30,000	0	
よこはま夢ファンド		700,000	0	700,000	はまどまコーディネーター費用 R4.7-9 150,000円未払
合計	0	1,140,000	440,000	700,000	

【固定資産の増減内訳】

[税込] (単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
(有形固定資産)						
林業用機器	940,245	0	0	940,245	940,244	1
クローラー式運搬車	329,400	0	0	329,400	261,432	67,968
ノートパソコン	0	119,800	0	119,800	119,800	0
(無形固定資産)						
ソフトウェア	0	190,300	0	0	190,300	0
合計	1,269,645	310,100	0	1,389,445	1,511,776	67,969

事業費の内訳

特定非営利活動法人 よこはま里山研究所

2022年 6月30日 現在

科目	全事業所	事務局	広報	ヤマ (非収益)	ヤマ (収益)	ムラ	受託 (非収益)	受託 (収益)
(受取会費)								
一般会員受取会費	336,000	336,000	0	0	0	0	0	0
運営会員受取会費	120,000	120,000	0	0	0	0	0	0
賛助会員受取会費	10,000	10,000	0	0	0	0	0	0
受取会費計	466,000	466,000	0	0	0	0	0	0
(受取寄付金)								
受取寄付金	144,467	3,062	0	139,947	0	1,458	0	0
受取寄付金計	144,467	3,062	0	139,947	0	1,458	0	0
(受取助成金等)								
受取助成金	1,140,000	0	0	440,000	0	700,000	0	0
受取助成金等計	1,140,000	0	0	440,000	0	700,000	0	0
(事業収益)								
自主事業収入	1,735,574	0	0	35,074	0	1,700,500	0	0
受託事業収入	9,148,150	0	0	0	0	0	259,200	8,888,950
販売事業収入	58,305	0	0	0	58,305	0	0	0
事業収益計	10,942,029	0	0	35,074	58,305	1,700,500	259,200	8,888,950
(その他収益)								
受取利息	97	82	0	1	0	3	0	11
雑収入	0	0	0	0	0	0	0	0
その他収益計	97	82	0	1	0	3	0	11
経常収益計	12,692,593	469,144	0	615,022	58,305	2,401,961	259,200	8,888,961
(人件費)								
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0
(その他経費)								
売上原価	1,224,069	0	0	0	42,905	1,181,164	0	0
業務委託費	6,899,040	238,104	289,600	120,000	0	600,000	62,000	5,589,336
諸謝金	1,574,290	0	0	99,501	0	117,236	140,000	1,217,553
印刷製本費	13,158	630	6,444	0	0	6,084	0	0
支払手数料	73,543	29,228	1,265	4,487	111	6,710	1,484	30,258
保険料	144,483	0	0	81,083	0	0	0	63,400
消耗品費	535,761	93,005	0	283,459	0	116,048	0	43,249
水道光熱費	92,987	3,334	0	5,570	414	17,067	1,842	64,760
地代家賃	990,000	36,592	0	47,971	4,548	187,349	20,217	693,323
賃借料	37,430	0	0	25,000	0	0	0	12,430
旅費交通費	36,430	1,980	0	34,450	0	0	0	0
通信運搬費	223,587	7,970	90,284	5,352	468	19,299	2,083	98,131
減価償却費	344,186	0	0	34,086	0	119,800	0	190,300
諸会費	15,400	15,400	0	0	0	0	0	0
租税公課	2,200	200	0	0	0	0	0	2,000
その他経費計	12,206,564	426,443	387,593	740,959	48,446	2,370,757	227,626	8,004,740
経常経費計	12,206,564	426,443	387,593	740,959	48,446	2,370,757	227,626	8,004,740
当期経常増減額	486,029	42,701	-387,593	-125,937	9,859	31,204	31,574	884,221
経常外収益 計	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用 計	150,000	0	0	0	0	150,000	0	0
法人税、住民税及び事業税	74,500	74,500	0	0	0	0	0	0
当期正味財産増減額	261,529	-31,799	-387,593	-125,937	9,859	-118,796	31,574	884,221

(千円)	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	11期	12期	13期	14期	15期	16期	17期	18期	19期	20期	21期	22期
当期収入合計	4,622	12,870	26,665	23,441	25,389	15,341	7,073	8,353	14,125	6,016	8,144	9,029	5,740	3,060	5,476	7,619	12,794	10,740	12,294	13,283	11,597	12,693
当期支出合計	4,069	11,959	22,184	24,567	21,946	18,672	10,380	6,946	11,174	6,633	7,953	7,644	5,261	3,601	4,984	6,702	10,669	9,256	11,912	11,987	10,273	12,431
当期収支差額	552	911	4,481	-1,126	3,443	-3,331	-3,307	1,408	2,950	-617	191	1,385	480	-542	492	916	2,125	1,483	382	1,296	1,324	262
前期繰越収支差額	0	552	1,464	5,945	4,819	8,262	4,932	1,624	3,032	5,983	5,366	5,557	6,942	7,422	6,880	7,372	8,288	10,413	11,896	12,278	13,574	14,897
次期繰越収支差額	552	1,464	5,945	4,819	8,262	4,932	1,624	3,032	5,983	5,366	5,557	6,942	7,422	6,880	7,372	8,288	10,413	11,896	12,278	13,574	14,897	15,159
自主事業参加者数											836	1,063	1,158	1,240	1,505	2,144	2,111	2,241	2,569	2,369	2,270	2,459

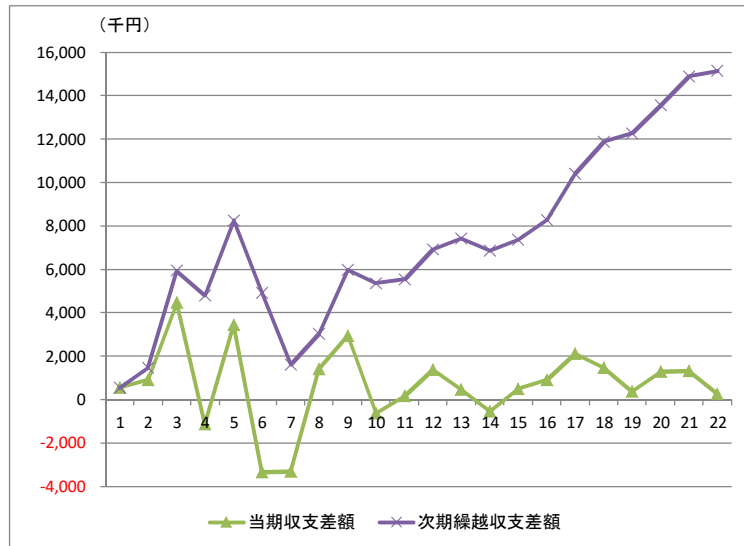


図 当期収支差額および次期繰越収支差額の推移

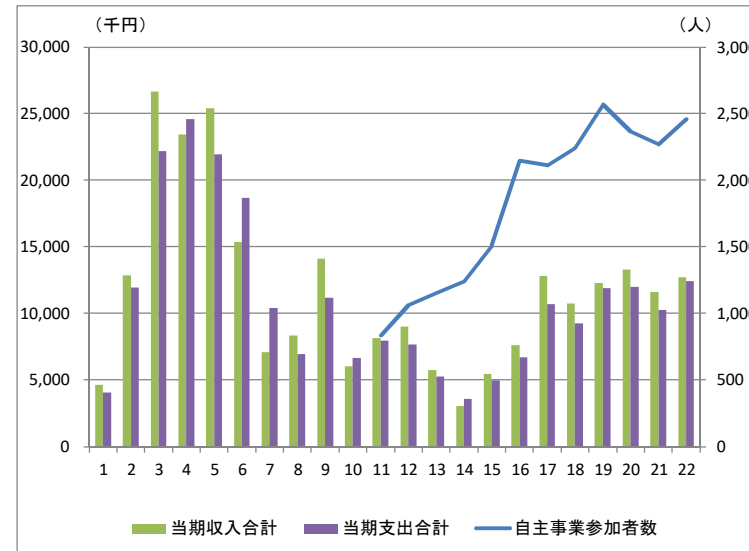


図 当期収入合計および当期支出合計の推移

1～9期の事業期間は1月～12月、11期以降の事業期間は7月～翌年6月
 10期の事業期間は2010年1月～6月の6か月間

監査報告書


特定非営利活動法人 よこはま里山研究所
理事長 松村正治 殿

第22期事業年度（2021年7月1日から2022年6月30日まで）の事業報告、活動計算書、貸借対照表、財産目録を監査した結果、法令や定款に則して適切に処理、記載されていることを認める。

以 上

2022年 8月 21日

特定非営利活動法人 よこはま里山研究所

監事 平石真司 

日本の里山は、1980年代にまず生物多様性の観点から自然保護の分野で再評価され、その後、生活文化の多様性ととも保全のための取り組みが展開されてきた。はじめは市民の環境運動として、1990年代半ば以降は環境政策にも取り入れられ、2000年代までは全国に里山保全活動は拡大していった。その中でも都市近郊の里山では、従来の自然保護運動と異なり、市民参加により新しいコモンズを創出しながら、身近な自然を保全してきたことに特徴があった。ところが2010年代に入ると、各地の里山保全団体において担い手の高齢化が進み、活動が停滞してきた。里山の担い手不足は獣害や自然災害とも関係することから、今日の里山は自然環境の問題よりも、地域コミュニティや災害の問題として取り上げられることが多い。一方、近年は地球温暖化の影響と見られる気象災害が頻発し、気候危機への対応が迫られるとともに、SDGs（持続可能な開発目標）に向けた行動も求められている。また、長く続くコロナ禍を経験して、身近な自然に体験や癒しを求める動きも強まっている。

このような里山をめぐる潮流の中で課題は山積し、複雑化しているが、NORAのコアメンバーも固定化・高齢化してきており、今後どのような方針のもとで事業を推進していくのか、明確なビジョンや中長期計画が描けていない。この模索期間にあって、下記のとおり4つの重点項目を掲げて事業に取り組んでいく。

①伴走支援を受けながらのMVV・中長期計画の作成

定款上の目的に掲げている「地域ごとに個性ある持続可能なコミュニティづくり」は、一人ひとりが主体性を発揮できる場づくりを通して目指すべきものである。このプロセスで重視すべきは対話であり、他者との対話、自然との対話、自分との対話も含む。一方的に話すのではなく、聞くために耳をすませることを意識したい。社会が変わらないと不満を抱えているとき、変わるべきは自分たちであるかもしれない。

今日、子どもたちの体験の貧困や格差、ナラ枯れ被害の拡大、地域環境の担い手不足など、里山にかかわる課題は山積している。里山に軸足を置きながらも、環境保全、教育・福祉、貧困・格差、まちづくりなど、多様な社会問題と関連させつつ、広い視野を持って活動を展開したい。そのためには、あらためてミッション・ビジョン・バリューを共有したうえで、中長期計画を作成する必要がある。

腑に落ちないものを急いで作成する必要はないが、昨期も同様の計画を立てながら具体化に向けて動くことができなかった。今期は外部からの伴走支援を得ながら、SDGsの目標年である2030年を見据えて、ビジョン・中長期計画の作成を進める。

②コーディネーターを中心とした「はまどま」活用の推進

「はまどま」が「街なかの里山の入り口」として活用しやすくなるように、コーディネーターが中心になって環境づくりやルールづくりを進めるほか、新しい参加者・担い手を増やすために、ニーズ調査、企画支援・コーディネート、情報発信に力を入れる。

コロナ禍が続く中でも、「はまどま」の目的・運営体制・利用方法等について、今期中に

ホームページを立ち上げられる精度で必要な情報を整理する。また、週1回以上定期的に開室するほか、「はまどま」の活動を多様な手段で情報発信しながら、「はまどま」について地域住民をはじめ広く知っていただく。さらに、「はまどま」利用に興味のある潜在層に積働かけ、ニーズを把握しながら新規の企画・プロジェクトの立ち上げを支援していく。

③里山への関心を向けるための絵本とカルタ・プロジェクト紹介動画の制作

今日の里山は、環境問題という視点よりも、自然豊かな子育て環境や丁寧な暮らしや地に足の付いた仕事を求める場として、またコロナ禍においては、特に都市住民にとって体験や癒しを求める場としても注目されている。実際に里山とかかわる機会がなくても、関心を持っていて、かかわる機会を求めている人はかなり多いと思われる。

そこで、これまで自然や里山に関心を持っていなかった都市住民に、絵本とカルタを通して里山の見方や感じ方などを伝える作品を制作する（「里山にかかわる暮らしを絵本などで楽しく表現し伝える」事業として、令和4年度「花博自然環境助成事業」に採択された）。

また、昨期に続き、里山関心層をターゲットにしてNORAのプロジェクト紹介動画を制作する。

④新規事業の立ち上げと活動成果の発信を支援する助成制度の設計

新規事業の立ち上げや他団体との新たな協働・連携を促進するために、そうしたスタートアップを支援する制度を検討し、今期に助成を開始する。また、これまで取り組んできた活動成果の情報発信を支援する制度についても、あわせて検討して助成を開始する。

以上の重点項目に取り組みつつも、定例の自主活動（ヤマ・ノラ・ムラ・ハレ・イキモノ）も着実に継続し、「根を持つことと翼をもつこと」を両立させていく。

自主事業

1. ヤマ事業

1) NORAの山仕事 {別紙計画書のとおり}

2) 竹を活かす山仕事 {別紙計画書のとおり}

3) よこはま里山レンジャーズ（連携：自然環境復元協会） {別紙計画書のとおり}

4) 都市の里山の活用推進 {別紙計画書のとおり}

（令和4年度「緑の募金」公募事業、連携：NPO法人足柄丹沢の郷ネットワーク）

5) 山道具の安全使用（連携：株式会社シンコー） {別紙計画書のとおり}

6) まちの近くで里山をいかすシゴトづくり

「里山とかかわる暮らし」と「里山をいかす仕事」の両立を求め、環境NPO運営スタッ

フ懇談会を定期開催し、バックオフィスの ICT 活用を進めるとともに事業協同組合の可能性を探る。また、多摩三浦丘陵群において里山の空間・資源をもとに事業を展開している他団体・個人等と具体的な協働のあり方を探り、「里山コネクト」の新たな活用を試みる。

7) 安全で楽しい森林づくり活動を指導できるリーダー養成事業

(主催：モリダス、令和4年度「緑と水の森林ファンド」、)

モリダス主催事業と共催するかたちで人材育成事業を実施し、安全で楽しい里山保全・森林づくり活動を指導できる現場リーダーを養成するほか、横浜・多摩地域の活動団体のネットワークを強化する。

2. ノラ事業

1) 森と畑と音楽と {別紙計画書のとおり}

3. ムラ事業

1) はまどまプロジェクト

(1) NORA 野菜市 {別紙計画書のとおり}

(2) もったいないから竹細工 {別紙計画書のとおり}

(3) はぶすばラボ {別紙計画書のとおり}

(4) はまどまで土間仕事 {別紙計画書のとおり}

(5) 『食べもの通信』読者会 {別紙計画書のとおり}

(6) はまどま諸々 {別紙計画書のとおり}

- ・ 季節の素材でスイーツメイキング
- ・ お香のてならい～金曜夜のお香づくり体験
- ・ 心も体も元気に季節の薬膳食事会

2) 地域連携・ネットワーク

南区役所、宮宿花1・2丁目町内会、蒔田公園愛護会、フォーラム南太田、睦地域ケアプラザなど、蒔田地区周辺の公共機関・団体との連携を深める。また、まいたエコサロンの会、横浜コミュニティカフェネットワークの一員として、ネットワーク活動に協力する。

4. ハレ事業

1) 20周年記念事業

今期の重点項目の1つとして、絵本とカルタおよびプロジェクト紹介動画を制作する。

5. イキモノ事業

1) トンボはどこまで飛ぶかフォーラム

フォーラムの一員として森里川海と連携し、生物多様性保全に繋がる活動を実施する。

6. 広報事業

1) ウェブサイト更新・メールマガジン配信・SNSによる情報発信

ウェブサイトの記事掲載については、一部の会員に負担が集中しないよう役割分担を進める。ウェブサイトと連携しながら、定期的に「里山と暮らしをつなぐメールマガジン」を配信して、効果的に情報を発信する。また、SNS（Twitter・Facebook・Instagram・YouTube）を利用して、柔軟に迅速に情報を発信するとともに、ウェブサイトとの相乗効果を高める。

2) 活動報告書の作成

2022年の活動報告書を作成し、年末に年会費の依頼とともに会員に送付する。

協働・受託事業

適宜、社会のニーズに応じて協働・受託事業を進める。また、ボランティア体験、インターンシップの受入は、可能な限り引き受ける。

- ・森づくりボランティア体験事業業務（横浜市環境創造局）
- ・横浜市保育所・小中学校等ビオトープ整備等指導業務（横浜市環境創造局）
- ・長浜公園トンボ池管理等業務（横浜市緑の協会）
- ・根岸森林公園トンボ等調査（横浜市緑の協会）
- ・野島公園ビオトープ環境改善業務（横浜市緑の協会）
- ・トンボとり大作戦開催業務（横浜植木）
- ・里地里山入門講座企画実施業務（横浜市環境創造局）
- ・Green Gift 地球元気プログラム（NPO 法人日本 NPO センター）

委員・講師派遣

行政・NPO・大学等からの求めに応じて、里山保全や市民活動等に関する委員・講師を派遣する。

■NORA 第 23 期プロジェクト計画書(2022 年 7 月～2023 年 6 月)

プロジェクト名	NORA の山仕事		
カテゴリー	ヤマ		
リーダー	下山康博		
スタッフ(リーダーを除く)	中林博志、島村雅英		
目的 (箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・「利用する森」をコンセプトにして、手入れによって豊かな森をつくる ・森の恵みを様々なかたちで利用して、森とかがわる暮らしを横浜で実践する 		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップアップ研修へ、3 期生の誘致 ・資材管理の徹底 ・ウッドワークショップ実施への準備 ・次世代へ繋ぐ森づくりへの環境整備 		
内容	常緑樹の除伐や下草刈、落葉樹苗の育苗から定植など、豊かな森づくりを目標に作業を行っている。除伐した材を有効活用するために、丸太を製材しスツールなどの木工品を製作したり、薪などにも利用している。		
日時	定例:第 2・第 4 日曜日 やま守り編:不定期 実施時間 10:00～16:00		
場所	旭区下川井町 特別緑地保全地区		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	9:30 作業リーダー集合 ミーティングを行い作業内容などを確認 10:00 一般参加者集合 作業リーダーの指示に従い、使用する道具の準備 10:30 現場にて作業開始 12:00 昼食 13:00 作業開始 15:00 作業終了 道具の整備、活動の振り返りと予定を確認 16:00 解散		
一般募集の有無	有:定員未定(NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集)		
参加費の有無	有:グリーンボランティア保険加入料として @500 円		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	参加費・寄付金収入	100,000 円	10 月 新治機械除草
	資材販売収入	30,000 円	
	県森林協会支援金	30,000 円	
	緑の募金	150,000 円	
	<計>	310,000 円	
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	グリーンボランティア保険	120,000 円	@6,000 円×20 回程度
	委託費	120,000 円	@10,000 円×12 か月
	消耗品費	70,000 円	燃料・工具修理等
	<計>	310,000 円	
収支見込額(a-b)	0 円		
備考(他団体との連携 等を適当に記入)			
作成年月日	2022 年 8 月 7 日	作成者名	下山康博

■NORA 第 23 期プロジェクト計画書(2022 年 7 月～2023 年 6 月)

プロジェクト名	竹を活かす山仕事		
カテゴリー	ヤマ		
リーダー	下山康博		
スタッフ(リーダーを除く)	三宅健也		
目的 (箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 畑や水源林である山々を侵食する竹林の手入れを行なう ・ 竹林整備を行なうことで、恵みある里山の生態系を維持する ・ 整備活動によって排出された竹材を有効活用する 		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業への継続的な参加者を募ると共に、運営を担えるスタッフを募る ・ 民有地の竹林整備を継続する ・ 良質な材を生産できる竹林を目標とし、整備を行う ・ 横浜市内で生産性を望める竹林を探す 		
内容	南足柄郡中井町にある竹林において、竹の間伐作業を行う。 切り出した竹は、竹かごを編む為の竹ひご作りに用いたり、カトラリーを製作する材料として活用する。 ※8月9月の間は、中井町での伐り出し作業は無し		
日時	毎月第3日曜日 10:00～15:00		
場所	南足柄郡中井町		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	9:00 京浜急行 上大岡駅集合(10:00 セブンイレブン中井遠藤店) 10:30 現地到着 作業開始 12:00 昼休み 13:00 作業再開 14:00 作業終了 材の積み込み 15:00 現地解散		
一般募集の有無	有：定員未定 (NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集)		
参加費の有無	有：@500 円(中井集合)・1,000 円(上大岡集合)		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	参加費	@500×4 人×10 回=20,000 円	
		@1,000 円 4 人×10 回=40,000 円	
	<計>	60,000 円	
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	交通費	22,600 円 (@2,260×10 回)	
	燃料費	17,000 円 (@1,700×10 回)	
	消耗品費	20,400 円	
	<計>	60,000 円	
収支見込額(a-b)	0 円		
備考(他団体との連携 等を適当に記入)			
作成年月日	2022 年 8 月 7 日	作成者名	下山康博

■NORA 第 23 期プロジェクト計画書(2022 年 7 月～2023 年 6 月)

プロジェクト名	よこはま里山レンジャーズ			
カテゴリー	ヤマ			
リーダー	島村雅英			
スタッフ (リーダーを除く)	よこはま里山レンジャーズプロジェクトメンバー(松村、下山、吉武、中林)			
目的 (箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・里山保全活動に新たなメンバーが加わり、環境活動団体の活性化を支援が図られる。 ・レンジャーズ活動が推進される。 			
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レンジャーズを延べ 10 回、里山等保全活動に派遣する。 ・活動をとおして運営スタッフやレンジャーズリーダーとなりうる人材を育成する。 			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・レンジャーズ受け入れ団体となる環境活動団体と活動内容、日程の調整をおこない、レンジャーズ隊員を派遣する。 ・レンジャーズリーダーを育成する。 ・指定管理者などからの活動資金提供を模索する。 ・森づくりボランティア体験事業(横浜市)の参加案内をレンジャーズに発信する。 			
日時	<ul style="list-style-type: none"> ・レンジャーズ派遣:年間スケジュールのとおり(月 1 回程度) ・森づくりボランティア体験事業の案内発信:6 回 			
場所	レンジャーズ派遣先:受け入れ団体活動場所(年間スケジュール参照)			
年間スケジュール	10/29 (土)	瀬上市民の森	瀬上さとやまのりの会	ヤマアガエルが産卵する 湿地の草刈り
	11/6 (日)	恩田の谷戸	恩田の谷戸ファンクラブ	収穫祭、脱穀・粃すり
	11/23(祝)	谷矢部池公園	わかぎの会	樹林地整備
	12/4(日)	桜ヶ丘緑地	桜ヶ丘・水辺のある森再生 プロジェクト	里山保全
	2/12(日)	瀬上市民の森 活動調整	瀬上さとやまのりの会	樹林地の除伐、間伐
	5 月	川井緑地	よこはま里山研究所	里山保全
	6 月	元町公園プール 新治の谷戸田	横浜にとんぼを育てる会 新治里山わを広げる会	トンボのヤゴ救出 外来植物の駆除
一般募集の有無	レンジャー登録を原則、1回あたり 10～20 人 レンジャーズ登録はメルマガ・HP、自然環境復元協会からの呼びかけ			
参加費の有無	無料			
収入見込額(a)	事業収入	100,000 円	森づくりボランティア体験事業から	
	<計>	100,000 円		
支出見込額(b)	謝金	100,000 円	@10,000 円×10 回 リーダー派遣	
	<計>	100,000 円	(交通費含む)	
収支見込額(a-b)	0 円			
備考(他団体との連携 等を適当に記入)	レンジャーズ名簿管理:自然環境復元協会 受け入れ団体:恩田の谷戸ファンクラブ、瀬上さとやまのりの会、新治里山「わ」を広げる 会、桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクト、わかぎの会、横浜にとんぼを育てる会			
作成年月日	2022 年 8 月 7 日	作成者名	島村雅英	

■NORA 第 23 期プロジェクト計画書(2022 年 7 月～2023 年 6 月)

プロジェクト名	都市の里山の活用推進		
カテゴリー	ヤマ		
リーダー	島村雅英		
スタッフ (リーダーを除く)	下山康博、中林博志、小西陽二		
目的 (箇条書きで記入)	・川井緑地等の活動で産出する間伐材や生育する植物資源等を有効活用することで、持続的な里山保全及びその活動が推進される。		
目標	・里山保全活動で産出した材の有効活用を図るための技術を習得する ・ワークショップの開催により、活用方法の普及を図る。		
内容	①スギ、ヒノキ及び広葉樹の生木を活用したグリーンウッドワークの研修 ②研修参加者を主体としたグリーンウッドワーク ワークショップ ③間伐材を活用した水中乾燥技術の改善		
日時	ワークショップは土日、祝日に開催		
場所	川井緑地		
年間スケジュール	10 月	グリーンウッドワークワークショップ 研修会	
	11 月～4 月	研修会参加者によるグリーンウッドワークワークショップ(4 回程度)	
	4 月	水中乾燥研修会	
	6 月	グリーンウッドワークワークショップ 研修会 2(成果報告会)	
	9 月～2 月	グリーンウッドワーク指導者養成講座等へ派遣(1 名程度)	
一般募集の有無	有：定員未定 (NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集)		
参加費の有無	ワークショップは有料開催予定 価格未定		
収入見込額(a)	緑の募金 <計>	700,000 円	
支出見込額(b)	養成講座参加費 ワークショップチラシ作成 資機材費 講師経費(謝金、交通費) その他諸経費 <計>	140,000 円 20,000 円 200,000 円 255,000 円 85,000 円 700,000 円	
収支見込額(a-b)	0 円		
備考(他団体との連携等を適当に記入)	NPO 法人足柄丹沢の郷ネットワーク		
作成年月日	2021 年 8 月 7 日	作成者名	島村雅英

■NORA 第 23 期プロジェクト計画書(2022 年 7 月～2023 年 6 月)

プロジェクト名	山道具の安全使用		
カテゴリー	ヤマ		
リーダー	中林博志		
スタッフ (リーダーを除く)	下山康博、島村雅英		
目的 (箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮し、より安全性を高めた緑地保全活動用の機材使用の啓発 ・環境と安全に配慮した機材物品類を販売・供給 		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・NORA 会員、関係する森づくり団体や山仕事の参加者などへ、バッテリーチェーンソーなど環境と安全に配慮した物品類を供給する。 		
内容	目標に同じ		
日時	通年		
場所	-		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	-		
一般募集の有無	なし		
参加費の有無	なし		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	50,000 円		
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	40,000 円		
収支見込額(a-b)	10,000 円		
備考(他団体との連携 等を適当に記入)	提携：株式会社シンコー		
作成年月日	2022 年 8 月 9 日	作成者名	中林博志

■NORA 第 23 期プロジェクト計画書(2022 年 7 月～2023 年 6 月)

プロジェクト名	森と畑と音楽と		
カテゴリー	ノラ		
リーダー	中川 櫛		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・休耕農地を利用することで地域環境や農地を維持する。 ・参加者が一連の農作業を体験することで、作物を育て収穫する喜びを体感する。 ・常時作付けが可能なように土地を管理する。 		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント参加者ではなく、準備運営に携わるスタッフの確保 ・マーケットやマルシェなど生産物の消費先(販路)の拡大 ・畑の効率的な利用方法の検討および実践 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・農地管理(草刈り・草取り・耕耘) ・作物の育成(作付け・施肥・防虫管理・収穫) ・収穫体験の実施 ・活動場所で採れた野菜を使った料理 ・林産物や伐採樹木の活用 ・子ども向け環境教育の実施 ・音楽会の実施 ・クラフト全般(おもに木工。電動工具も使用) 		
日時	基本的に毎週日曜日 10:00～17:00 (土曜日活動になることもあり:要連絡)		
場所	厚木市七沢・伊勢原市日向		
年間スケジュール	<p>7 月 野菜収穫 草刈り 種まき 田んぼの草刈り</p> <p>8 月 夏野菜収穫 草刈り 畝作り 種まき・苗植え付け 水田草取り</p> <p>9 月 草取り 苗植え付け 種まき</p> <p>10 月 草刈り 草取り 収穫作業 稲刈り</p> <p>12 月上旬 収穫祭</p> <p>11～2 月 収穫作業 クラフト(伐採した木材等の活用)</p> <p>2～3 月 耕耘・クラフト・イベント出展・こども自然体験プログラム(川遊び・昼食作り)</p> <p>4 月 種まき 中旬～下旬 草刈り 耕運 施肥</p> <p>5 月 苗植え付け 種まき 草刈り・畝作り 水田のための用水路清掃</p> <p>4～6 月 種まき ニンニク収穫 苗植え(サツマイモ) 草刈り</p> <p>6 月 田植え (田植え体験)</p>		
一般募集の有無	有 (定員未定)		
参加費の有無	有 (参加プログラムによる)		
収入見込額(a)	農業体験委託	60,000 円	@100 円×800 個
	農産物販売	80,000 円	
	<計>	140,000 円	
支出見込額(b)	購入費	80,000 円	種苗 30,000 円、肥料 10,000 円、資材 40,000 円
	借地料	30,000 円	地主 3 名へのお礼
	燃料代ほか	30,000 円	ガソリン・オイル代 20,000 円、雑費 10,000 円
	<計>	140,000 円	
収支見込額(a-b)	0 円		
備考			
作成年月日	2022 年 8 月 8 日		作成者名 中川 櫛

■NORA 第 23 期プロジェクト計画書(2022 年 7 月～2023 年 6 月)

プロジェクト名	もったいないから竹細工		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	下山康博		
スタッフ (リーダーを除く)	講師:山口和美 アシスタント:小田切一郎・小林準治・三宅健也		
目的 (箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竹林整備で排出された竹材を有効活用する ・ 竹材から竹ひごを製作し、竹籠などの竹細工を作る ・ 竹材の価値を見出すことで、竹林整備への人員を誘う ・ 会員を誘致し、会費収入を増やす 		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ対策の徹底化 ・ 新しいアドバイザーの育成&増員を考える ・ 次世代を担うマネージャーの発掘 ・ 自主練習日の継続(キャンセル待ち対策) 		
内容	竹かご教室:5 作品(全 7 回)にて一区切りをつけ、修了後は工房作業への参加を促す 竹細工 工房:竹ひご作りの練習や竹かご製作、カトラリー作り等 WS を行う		
日時	毎月第 4 土曜日 (竹かご教室)13:00～17:00 毎月第 1 水曜・第 2 土曜・第 3 木曜・第 4 月曜(工房作業) 9:30～12:00/13:00～16:00		
場所	はまどま		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)			
一般募集の有無	有:定員 10 名 (NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集)		
参加費の有無	有:@1,000～2,500 円		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	参加費 144,000 円(竹かご教室) 960,000 円(竹細工工房) 会費収入 106,000 円 <計> 1,210,000 円	@2,000×6 人×12 回 @2,000×10 人×4 回/月×12 回 ※ 参加人数は平均値 ※ 会費収入は昨年度比	
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	はまどま使用料 110,400 円 はまどま家賃補填 106,000 円 経 費 993,600 円 <計> 1,210,000 円		
収支見込額(a-b)	0 円		
備考(他団体との連携 等を適当に記入)			
作成年月日	2022 年 8 月 7 日	作成者名	下山康博


■NORA 第 23 期プロジェクト計画書(2022 年 7 月～2023 年 6 月)

プロジェクト名	NORA 野菜市		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	三好豊		
スタッフ (リーダーを除く)	井上香織・関正明・田島里美		
目的 (箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・交流できる神奈川県内の生産者を中心に、その作物の利用を広げる。 ・身近な神奈川で生産できる作物を知らせる。 ・全国の有機農業・自然農法に挑む若い生産者を知らせ支援につなげる。 ・50 年後の日本列島に暮らす人々のために、今、何が必要か、何ができるか、多くの人々と一緒に考えて行動したい。 		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週、定例開催する野菜市は、NORA 野菜市のみとなりました。 野菜市を継続しながら、四季折々、毎週変化する農産物の、より充実した野菜市にしたいと考えます。 ・ 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県内生産者の農産物販売 ・全国の有機・自然農法生産者の農産物の特別企画・有機栽培のお茶コーナー ・「みどりのほんや」と提携した、古書(たまに新刊)販売。 		
日時	毎週火曜日・17時～19 時		
場所	大和ビル駐車場		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	年末年始と夏季に休業・春秋の大型連休がある場合は休業を検討。		
一般募集の有無	無		
参加費の有無	無		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)			
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)			
収支見込額(a-b)			
備考(他団体との連携 等を適当に記入)	「神奈川・緑の劇場」から、はまどま運営費として年間 30 万円寄付		
作成年月日	2022 年 8 月 9 日	作成者名	三好豊

■NORA 第 23 期プロジェクト計画書(2022 年 7 月～2023 年 6 月)

プロジェクト名	『食べもの通信』読者会		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	三好豊		
スタッフ (リーダーを除く)	伊藤洋子		
目的 (箇条書きで記入)	月刊情報誌『食べもの通信』の定期購読をすすめつつ、少しずつ信頼できる新しい情報にふれ、学び合う場をつくる。		
目標 (今期の具体的な目標を 箇条書きで記入)	2019 年 11 月から始めた企画。2020 年コロナ自粛期間に試験的にリモート読者会を 2 回開いた。以後も、コロナ禍が続く中で、リモート開催が定着している。宮崎県からの参加や、岡山県、編集部からの参加もあり、「はまどま」での参加と、リモート参加を呼び掛けている。		
内容	2022 年 6 月までに 27 回の開催。伊藤洋子さんの zoom ホストと司会進行。最新号から参加者が気になった記事を発表し全員で感想、経験、意見などを出し合う。Zoom 流の発言の仕方、映像を使ったコミュニケーションにも慣れて、回を重ねるごとに楽しい時間となっている。		
日時	定例日・毎月第 2 月曜日 ※祝日等の場合は、参加者で相談する。		
場所	はまどまとリモート		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は 実施日のスケジュール)	順調ならば毎月開催。年間 12 回。内容によっては、特別開催も積極的に企画したい。		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	有		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	1回 500 円・6 回分前納 2,000 円(回数券方式) 参加費 24000 円(6 名×4,000 円)		
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記す ほか、合計も記入)	Zoom ホスト手数料 2,000 円 はまどま運営協力費 20,000 円 事務費(コピー代・ノート代等) 2,000 円		
収支見込額(a-b)	0 円		
備考(他団体との連携 等を適当に記入)	『食べもの通信』発行・家庭栄養研究会はじめ、「食べもの通信」を通してつながることができる団体。		
作成年月日	2022 年 8 月 7 日	作成者名	三好 豊

■NORA 第 23 期プロジェクト計画書(2022 年 7 月～2023 年 6 月)

プロジェクト名	はぶすば ラボ 		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	三浦 まきこ		
スタッフ (リーダーを除く)	勝野真美		
目的 (箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> 免疫力、自然治癒力を高めるメディカルハーブ及び植物の力を利用して人の体や心をケアするフィットセラピーの「研究・学び」の場を提供する。 参加者が知恵や知識を持ち寄り、みんなで楽しめるコミュニティづくりを目指す。 		
目標 (今期の具体的な目標を箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> 活動を通じてハーブやスパイスについての知識・理解を深め、暮らしの様々な場面で幅広く役立てる。 		
内容	はまどまにてハーブ・スパイス研究会を開催している。 参加者が為になる情報を共有し、互いのスキルアップを図っている。		
日時	活動日時: 第 1 日曜日 10:00～12:00 (但し 夏季・冬季・GW はお休み)		
場所	はまどま		
年間スケジュール	2022/7/3、9/4、10/2、11/6、12/4、2023/2/5、3/5、4/2、6/4		
一般募集の有無	有 (定員未定)		
参加費の有無	有 (参加プログラムによる)		
収入見込額(a)	参加費 <計>	126,000 円	@3,500 円×4 人×9 回
支出見込額(b)	はまどま運営費 業務委託費 <計>	18,000 円 108,000 円 126,000 円	
収支見込額 (a-b)	0 円		
備考(他団体との連携等を適当に記入)			
作成年月日	2022 年 8 月 9 日	作成者名	三浦 まきこ

■NORA 第 23 期プロジェクト計画書(2022 年 7 月～2023 年 6 月)

プロジェクト名	はまどまで土間仕事		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	矢野真美		
目的	<p>家にいるからこそできること…いつもより、ほんの少しだけ丁寧に生活する…を目指して、今期の土間仕事はできるだけ開催していきたい。</p> <p>季節感、旬、美味しいと心から言える毎日のご飯のためにできることを、私ならではの視点で伝えていきたい。</p>		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・季節と暦に合わせた企画作り。 ・無理なく、自分の生活の中で活かせるものを作る。 ・日々の生活の中で「いつもと、ほんの少し違う」を意識できるコンテンツを提供する ・動画を撮影、アップを積極的に。 		
内容	<p>神奈川産の素材を積極的に使って、普段の生活にやさしく取り入れられるエッセンスをお伝えする。</p>		
日時	<p>季節ごとのタイミングで、2～3 か月に1度を予定。</p>		
場所	はまどま		
年間スケジュール	10 月から開催予定		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	有		
収入見込額(a)	参加費 <計>	105,000 円 105,000 円	@3,500 円×5×6 回 (3,000～5,000 円)
支出見込額(b)	消耗品費 はまどま運営費 <計>	84,000 円 21,000 円 105,000 円	@500 円×7×6 回
収支見込額(a-b)	0 円		
備考			
作成年月日	2022 年 8 月 7 日	作成者名	矢野真美

■NORA 第 23 期プロジェクト計画書(2022 年 7 月～2023 年 6 月)

プロジェクト名	季節の素材でスイーツメイキング		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	山本美香		
スタッフ(リーダーを除く)	矢野真美		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の果物や野菜で簡単に作れるレシピを中心に、神奈川県内産を積極的に使う。 ・NORA 野菜市再開の際には、連動させることで、野菜市のお客さんや、町内のご近所さんも「はまどま」に立ち寄ってもらう工夫を。NORA の活動にも興味を持ってもらう。 ・地域交流も視野に入れ、夏(自由研究)と冬(クリスマス)は親子での参加を促す。(子供も参加しやすい時間帯で開催) 		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・感染状況を見つつ、開催する。 (夏冬は平日の昼間、その他は可能な限り火曜日の NORA 野菜市に合わせる)		
内容	22 期も開催なしだった。23 期は今までとは違う形を考える。(カセットコンロやホットプレート等を使って、距離を保ちながらそれぞれが料理をしてもらい、仕上げるなる)		
日時	2022 年 10 月、12 月、2023 年 3 月、5 月(予定)		
場所	はまどま		
年間スケジュール	2022 年 10 月(秋の素材満載のスイーツ&ごはん) 12 月(簡単美味しいクリスマスメニュー) 2023 年 3 月(春の食材をさらに美味しく食べるメニュー) 5 月(初夏の爽やかさを感じるメニュー)		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	大人 2,000 円(中学生以上)、子ども 1,500 円(4歳以上)、4歳未満は無料		
収入見込額(a)	参加費 <計>	100,000 円 100,000 円	(@2,000 円×5+@1,500×10)×4 回
支出見込額(b)	消耗品費 はまどま運営費 <計>	70,000 円 30,000 円 100,000 円	@500 円×15×4 回
収支見込額(a-b)	0 円		
備考			
作成年月日	2022 年 8 月 7 日	作成者名	矢野真美

■NORA 第 23 期プロジェクト計画書(2022 年 7 月～2023 年 6 月)

プロジェクト名	お香の手ならい～金曜日のお香づくり体験		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	粕谷恵(静流)		
スタッフ(リーダーを除く)	なし		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・お香づくりを通して、それぞれ別々の個性のある香りを合わせ、や調和された自然の摂理感じていただく。 ・全て天然の原材料のみを使い自然の植物のもつところ、からだに対する作用を感じてもらい、里山、自然、地球へ目を向けるきっかけを目指す。 		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・NORA の他活動との連携の中での企画づくり ・親子、子ども対象の企画 ・川井緑地にある自然の素材でのお香づくり <p>実際に里山の植物で作ったお香原料を使いお香作品を作る中で、里山、自然、ひいては地球へ目を向けるきっかけとなることを目指す（本年度は里山の植物を採取して、実際にお香原料を作ることを実現したい）。</p>		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・天然の草木や花が原材料であるお香を使って、自分だけの香り、レシピのあるものなどを楽しんで作っていただく。 ・お香づくりを通し、天然の香原料に備わる「ころよからだや霊性を調える作用」を感じてもらい、香りでころよからだを「調える」ことができることを体感していただく。 ・里山の自然の中から採取した素材の中に、原材料となるものがあることを知っていただく。 		
日時	月に1回金曜日+αの 18:30～19:45		
場所	はまどま		
年間スケジュール	毎月1回+α		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	有		
収入見込額(a)	参加費 <計>	60,000 円 60,000 円	@4,500 円×1×12回
支出見込額(b)	消耗品費 はまどま運営費 <計>	54,000 円 6,000 円 60,000 円	@500 円×1×12 回
収支見込額(a-b)	0 円		
備考			
作成年月日	2021 年 8 月 7 日	作成者名	粕谷恵

■NORA 第 23 期プロジェクト計画書(2022 年 7 月～2023 年 6 月)

プロジェクト名	心も体も元気に季節の薬膳食事会		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	内倉和子		
スタッフ(リーダーを除く)	矢野真美(・三好豊)		
目的	季節に応じた食材で、一般的に手に入る身近な食材をメインに、生薬(薬効のある自然物)も少々取り入れ、家でも作れる献立を作る。応用できるメニューも紹介。		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・できる限り神奈川県内産のものを使う(NORA 野菜市からできるだけ購入) ・一緒に作って、食べて、美味しく楽しく養生する。 ・状況に応じて、距離を取りながら…調理、試食。オンラインでの配信を検討。 		
内容	・内倉会員が学ぶ薬膳料理教室のメニューを基に、神奈川県野菜と旬の素材を使って献立を作成、調理、試食する。		
日時	3 か月おきの日曜日 10:00～14:00		
場所	はまどま		
年間スケジュール	2021 年 10 月(冬準備の薬膳ごはん) 12 月(薬膳でクリスマスメニュー) 2023 年 3 月(春を祝う、薬膳ひな祭りごはん) 6 月(梅雨のたるさを吹き飛ばす薬膳ごはん)		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	3,000 円 (会員 2,500 円) 未就学児対象のハーフサイズ : 1,000 円 ※前売り回数券 5 回分 (有効期限 1 年) : 15,000 円		
収入見込額(a)	参加費	60,000 円	@3,000 円×5×4 回
	<計>	60,000 円	
支出見込額(b)	消耗品費	50,000 円	
	はまどま運営費	10,000 円	@500 円×5×4 回
	<計>	60,000 円	
収支見込額(a-b)	0 円		
備考			
作成年月日	2022 年 8 月 7 日	作成者名	矢野真美

第4号議案 第23期（2022年7月～2023年6月）予算

[収入]

科目	第21期決算額	第22期予算	第21期決算額	第23期予算額	備考
会費	521,000	540,000	466,000	540,000	運営会員@12,000*15+一般会員@3,000*120
寄付金	185,950	100,000	144,467	100,000	個人寄付
助成金	1,795,804	1,200,000	1,140,000	1,430,000	緑の募金700千円、よこはま夢ファンド700千円、神奈川県森林協会30千円
自主事業収入	1,669,392	1,600,000	1,735,574	1,800,000	竹細工1,144千円、山仕事130千円、はぶすば126千円、各事業参加費等
販売収入	0	60,000	58,305	60,000	チェーンソー関連消耗品販売
受託事業収入	6,626,308	6,000,000	9,148,150	8,800,000	森ボラ体験3,190千円、里山入門990千円、GGift710千円、講座・講師謝礼
雑収入	798,100	150,000	97	10,000	
当期収入合計 (A)	11,596,554	9,650,000	12,692,593	12,740,000	

[支出]

	科目	第21期決算額	第22期予算	第21期決算額	第23期予算額	備考
事業人件費	給料手当	0	0	0	0	研究員給料
	臨時雇賃金	0	0	0	0	
	役員報酬	0	0	0	0	
	法定福利費	0	0	0	0	社会保険料、労災保険料
事業経費	事業仕入	982,368	900,000	1,224,069	1,200,000	
	販売仕入	0	40,000	0	40,000	チェーンソー関連消耗品仕入
	事業委託費	4,802,382	4,000,000	6,660,936	6,500,000	受託事業、山仕事、デザイン料、外注費
	諸謝金	2,000,127	1,800,000	1,574,290	1,800,000	講座講師謝礼
	印刷製本費	14,487	20,000	12,528	20,000	報告書印刷、コピー代
	支払手数料	20,263	20,000	44,315	50,000	振込手数料
	保険料	106,672	100,000	144,483	150,000	グリーンボランティア保険、イベント保険
	消耗品費	579,925	400,000	442,756	500,000	山仕事道具、工具
	器具備品費	0	150,000	0	120,000	
	修繕費	0	50,000	0	50,000	
	水道光熱費	0	0	89,654	90,000	
	地代家賃	0	0	953,408	950,000	家賃@82,500円*12を収入費で按分
	賃借料	112,680	100,000	37,430	100,000	レンタカー、チップ、会場借上
	会議費	0	10,000	0	10,000	会議室料、茶代等
	旅費交通費	1,000	20,000	34,450	30,000	講師旅費
	通信運搬費	69,044	50,000	215,618	180,000	郵送料、備品送料、電話・通信、ネット使用料
	減価償却費	45,770	40,000	344,186	30,000	クローラー式運搬車
	調査研究費	3,772	20,000	0	380,000	理事長@30,000円*12、研修会参加
	広告宣伝費	44,883	50,000	0	50,000	
租税公課	0	0	2,000	0		
雑費	0	20,000	0	5,000		
管理費	業務委託費	100,000	200,000	238,104	240,000	経理・決算・納税委託
	印刷製本費	2,013	10,000	630	10,000	
	支払手数料	51,348	40,000	29,228	30,000	ネットバンキング25千円
	消耗品費	7,630	30,000	93,005	30,000	会計ソフト等
	水道光熱費	84,356	100,000	3,333	10,000	
	地代家賃	991,980	990,000	36,592	40,000	
	通信運搬費	122,890	120,000	1,980	10,000	電話・通信、ネット使用料
	諸会費	10,400	20,000	7,969	10,000	町内会費、ネットワーク団体会費
経常外	旅費交通費	0	0	15,400	10,000	
	租税公課	500	5,000	200	5,000	
	雑費	44,016	30,000	0	5,000	
	固定資産除却損	0	0	0	0	
経常外	前期損益修正損	0	0	150,000	0	
	法人税、住民税及び事業税	74,500	74,500	74,500	74,500	
	当期支出合計 (B)	10,273,006	9,409,500	12,431,064	12,729,500	
	当期収支差額 (A)-(B)	1,323,548	240,500	261,529	10,500	

第5号議案 定款変更

NPO 法では利益の分配が禁止されており、使用人兼務役員の労務に対価を払うことは認められているが、報酬を払ってもよい理事は役員総数の 1/3 以内と定められている。2007 年 7 月以降、代表権のある理事や役付理事および監事は使用人兼務役員になることができず、こうした役員に対して事前に届出がなく変動する報酬を支給する場合は損金に参入できない（事前に定額の報酬を支給することが届け出ている場合は損金算入できる）。

当法人では使用人兼務役員になれない役員が事業に従事することがありうるため、そうした役員の労務に対して NPO 法上および税制上適切な人件費を報酬として支給できるように、下記のとおり役員の報酬等に関する条文を変更する。

	新（変更後）	旧（変更前）
変更の内容	特定非営利活動法人よこはま里山研究所 定款	特定非営利活動法人よこはま里山研究所 定款
	略	略
	第 3 章 役員 (報酬等)	第 3 章 役員 (報酬等)
	第 16 条 <u>代表権のある理事や役付理事および監事は、総会の議決を経て、定期同額の報酬を受けることができる。</u>	第 16 条 <u>理事は、報酬を受け取らない。監事は、総会の議決を経て、報酬を受けることができる。</u>
	2 <u>使用人兼務役員</u> には、理事会の議決に基づき、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。	2 <u>役員</u> には、理事会の議決に基づき、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
	略	以下略
	附則 この定款は、2022 年 8 月 27 日から施行する。	